東山梨教育研究

第６４号

東山梨教育研究編集実行委員会

東山梨教育協議会

もくじ

◎あいさつ　東山梨教育研究編集実行委員会
　　会長　小林俊彦 …… 3
◎あいさつ　東山梨教育協議会
　　会長　中村直人 …… 4

◎学校研究
　○小学校 …… 5
　○中学校 …… 47

◎教育協議会研究
　○令和７年度　東山梨教育協議会研究の概要
　　研究推進委員長　若月敬二郎 …… 59
　○教育研究会 …… 63
　○ブロック交流研究会 …… 117
　○特別委員会
　　・児童会・生徒会活動の活性化に向けた研究会 …… 123

◎学校経営研究
　○小学校経営研究会　組織運営部会 …… 125
　○小学校経営研究会　健全育成部会 …… 127
　○小学校経営研究会　国際理解教育部会 …… 129
　○中学校経営研究会 …… 131

◎学校運営研究
　○山梨市学校運営 …… 133
　○甲州市学校運営 …… 135
　○全国教頭研究大会 …… 137
　○関東甲信越地区教頭研究大会 …… 138
◎報告
　○内地留学研修報告 …… 139

◎あとがき …… 141

以下　特別委員会報告

「東山梨教育研究第６４号」の発刊に寄せて

甲州市教育委員会教育長　小林　俊彦

東山梨の教育研究の集大成である「教育研究第６４号」が、諸先生方の情熱とたゆまぬ研鑽により、ここに晴れて発刊の日を迎えました。執筆に携わられた先生方、並びに編集の任に当たられた関係各位に深く敬意を表するとともに、心からの感謝を申し上げます。６４年という歳月をかけて紡がれてきた本誌は、本地域の教育水準を支える確かな礎であり、先達から受け継いできた叡智と志の結晶にほかなりません。

振り返れば、２０２５年の世相を象徴する漢字には「熊」が選ばれました。全国的な被害が報じられる中、本市においても痕跡を含め数件の出没が確認されたことは、自然環境の変化を身近に感じる警鐘として記憶に新しいところです。背景には、地球温暖化に伴う深刻な気候変動が横たわっています。事実、２０２５年の夏は伊勢崎市で国内最高気温４１．８度を記録し、東京でも猛暑日が過去最多を更新しました。かつて猛暑日が「ゼロ」という年もあった１９８０年代の気候に照らせば、環境の変化がいかに深刻な局面に達しているかを痛感せざるを得ません。

科学技術が飛躍的な進歩を遂げる一方で、その速度を上回る勢いで環境破壊が進行する現状に、私たちは強い危機感を抱いています。しかし、その閉塞感の中に一条の光をもたらしたのが、ＭＯＦ（金属有機構造体）の研究でノーベル化学賞を受賞された北川進教授の功績でした。特定のガスを捕捉し有用な物質へと変換するこの技術は、脱炭素社会の「ゲームチェンジャー」として期待を集めています。人間の叡智が生み出す力は、困難を希望へと変える大きな可能性を私たちに示してくれました。

大人が正解を見出せない不透明な時代だからこそ、子供たちには自らの可能性を信じ、多様な他者と協働しながら持続可能な社会を築く力を育んでほしいと願います。その実践として、本年１月には奥野田小学校において、「地域と未来を拓くわたしたちの学びの探究」を主題とした公開授業研究会が開催されました。同校は「授業時数特例校」の制度をいち早く活用し、教科の枠を超えて地域課題や実社会と深く結びついた探究学習を展開してきました。

市教育委員会では、この成果と課題を糧に、本年４月より「授業時数特例校」の指定校をさらに拡充してまいります。環境、エネルギー、外国語教育を柱に据え、質の高い「深い学び」を各校で具現化していく所存です。自ら問いを立て、解決の道を模索する探究のプロセスこそが、予測困難な未来を生き抜く子供たちの確かな羅針盤になると確信しております。

東山梨教育研究は、多くの先輩方が長年にわたり培ってきた教育実践を礎として進められており、今後も確かな歩みを進めていかれるものと確信しております。結びに、東山梨教育と教育関係各位のご尽力に重ねて敬意を表し、益々のご発展をご祈念申し上げまして、発刊に寄せる言葉といたします。

あ い さ つ

東山梨教育協議会会長　中村　直人

東山梨教育協議会の研究の成果を収めた「東山梨教育研究」第 64 号を発刊することができました。この研究集録は多くの先輩諸氏の努力のもと、昭和 38 年に創刊以来約 60 年にわたり東山梨地区の研究成果を記録してきたものです。東山梨の教育研究は、東山梨教育協議会が核となり、子どもたちを中心に据え、よりよい成長、たくましい成長を願い、教育三者が一体となり、時代の変化や子どもたちの状況、社会の要請に対応する教育研究が行われてきました。

さて、我が国ではグローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・ 複雑化する諸課題への対応が必要となっており、学校教育において求められる人材育成像の変化への対応が必要とされています。これに伴い、21 世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成等を重視する必要があると指摘されています。一方、学校現場に目を向けると、教職員の欠員状況が続き、体調を崩し休職したり、早期に職を離れたりする教員も少なくないという現実があります。価値観の多様化が進み、家庭環境も複雑化する社会の中で、子ども・保護者と良好な関係性を保ちつつ、国が教員に求めている、様々な力・資質を十分に身に付け、教育活動を進めていくことが、年々難しくなってきているように感じます。

文科省では、これからの教員に求められる資質能力について次のような点を挙げています。

（１）教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）

（２）専門職としての高度な知識・技能

・教科や教職に関する高度な専門的知識（グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む）

・新たな学びを展開できる実践的指導力（基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力）

・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

（３）総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

東山梨の教育研究活動が、諸先輩方の思いを受け継ぎ、東山梨教育協議会を中心に、様々な学校課題の解決に繋がる新たな一歩が踏み出されることを期待しています。

結びに、本年度も東山梨教育協議会の様々な研究活動に対し、ご指導・ご支援をいただいた多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げ、あいさつといたします。